

2022年1月16日  
礼拝

祈り

聖書

ローマ人への手紙4章9～13節

4:9 それでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、「アブラハムには、その信仰が義とみなされた。」と言っていますが、

4:10 どのようにして、その信仰が義とみなされたのでしょうか。割礼を受けてからでしょうか。まだ割礼を受けていないときにでしょうか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときにです。

4:11 彼は、割礼を受けていないとき信仰によって義と認められたことの証印として、割礼というしるしを受けたのです。それは、彼が、割礼を受けないままで信じて義と認められるすべての人の父となり、4:12 また割礼のある者の父となるためです。すなわち、割礼を受けているだけでなく、私たちの父アブラハムが無割礼のときに持った信仰の足跡に従って歩む者の父となるためです。4:13 というのは、世界の相続人となるという約束が、アブラハムに、あるいはまた、その子孫に与えられたのは、律法によってではなく、信仰の義によったからです。

説教  
割礼の意義

割礼は日本人にはなじみのない儀式です。  
しかしイスラエルの人には重要な儀式。聖書の中に割礼は  
頻繁に出て来ます。

1月2日、9日は  
希望、この希望を支えている神との平和について心の世界  
について語らせていただきました。

今日は希望、平和と少し対照的な儀式、割礼を取り上げ  
てその関連性、意義、重要性を学びましょう。

今日的に考えるなら

信仰による救いと洗礼という儀式の関連であります。  
信じて救われるなら洗礼など儀式の意義はどこにあるので  
しょうか。

内村鑑三の無教会派は信仰のみで  
洗礼など儀式を完全に否定しています。



ルカ2章21節ではイエス様も生後8日目に  
割礼を受けておられます。  
ローマ書でも2章でも4章でも  
割礼が取り上げられています。

2:25 もし律法を守るなら、割礼には価値があります。しかし、もしあなたが律法にそむいているなら、あなたの割礼は、無割礼になったのです。2:26 もし割礼を受けていない人が律法の規定を守るなら、割礼を受けていなくても、割礼を受けている者とみなされないでしょうか。2:27 また、からだに割礼を受けていないで律法を守る者が、律法の文字と割礼がありながら律法にそむいているあなたを、さばくことにならないでしょうか。2:28 外見上のユダヤ人がユダヤ人なのではなく、外見上のからだの割礼が割礼なのではありません。2:29 かえって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です。その誉れは、人からではなく、神から来るものです。

心に割礼を受けている時、  
からだの割礼の有効性を称えています。  
心に割礼を受けていない者の  
からだの割礼の有効性を否定しています。

ローマ書4章11節では  
「信仰によって義と認められたことの証印として、  
割礼というしるしを受けたのです。」

と書かれて

救われる、義とされる実態は信仰によるのであり、  
割礼は証印、証明書、保証書と外的なものとして説明して  
います。

創世記17章にはアブラハムが割礼を受けた記事が書かれています。

17:9 ついで、神はアブラハムに仰せられた。「あなたは、あなたの後のあなたの子孫とともに、代々にわたり、わたしの契約を守らなければならない。

17:10 次のことが、わたしとあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。

17:11 あなたがたは、あなたがたの包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたの間の契約のしるしである。

17:12 あなたがたの中の男子はみな、代々にわたり、生まれて八日目に、割礼を受けなければならない。家で生まれたしもべも、外国人から金で買い取られたあなたの子孫ではない者も。

17:13 あなたの家で生まれたしもべも、あなたが金で買い取った者も、必ず割礼を受けなければならない。わたしの契約は、永遠の契約として、あなたがたの肉の上にするされなければならない。

17:14 包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、その民から断ち切られなければならない。わたしの契約を破ったのである。」

アブラハムは創世記15章5節で

15:5 そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。

「あなたの子孫はこのようになる。」

15:6 彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

神様からの語りかけ、約束アブラハムは信じた。  
それを神様は見てアブラハムを義とされました。



さらにこの信仰がよく理解されて確かなものとなるために創

## 世記15章9～10節

15:9 すると彼に仰せられた。「わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山鳩とそのひなを持って来なさい。」

15:10 彼はそれら全部を持って来て、それらを真っ二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。しかし、鳥は切り裂かなかった。

15:17 さて、日は沈み、暗やみになったとき、そのとき、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、あの切り裂かれたものの間を通り過ぎた。

神様の一方的な恵み、赦しを啓示されました。

創世記16章ではアブラハムの弱さ、問題、罪が露呈されています。

アブラハムは女奴隷ハガルの所に入って  
子供イシュマエルが生まれました。

イシュマエルの誕生はアブラハム家の悩みの種となりました。

この事件の前に、神様の贖い、赦し、  
行いではなく信仰によって救われることが示されています。

ハガル、イシュマエル事件から13年。

創世記16章から17章に移行するとき。

16:16 ハガルがアブラムにイシュマエルを産んだとき、アブラムは八十六歳であった。17:1 アブラムが九十九歳になったとき【主】はアブラムに現れ、こう仰せられた。「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。

アブラハム86歳から99歳までの13年間

アブラハムは悔い改めの実、信仰の立て直しの13年を歩んでいました。信仰の訓練の時です。

13年間の信仰の訓練を受けたアブラハムに主は語られました。  
た。

17:6 わたしは、あなたの子孫をおびただしくふやし、あなたを  
幾つかの国民とする。あなたから、王たちが出て来よう。17:7  
わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあ  
なたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契  
約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの子孫の  
神となるためである。

救いの約束が確かであるとアブラハムが信じ確信し、アブラハムの信仰がぶれないために

17:10 次のことが、わたしとあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。

17:11 あなたがたは、あなたがたの包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたの間の契約のしるしである。

アブラハムは救いの印し、  
神様の赦し、愛の印しとして  
からだに割れを受けるようにされました。

アブラハムは神を信じた。自分の罪も弱さも分かった。  
それで御子を身代わりにして愛して赦してくださる神様の愛  
が分かった。13年間悔い改めの実を結ぶ日々も送った。  
アブラハムはこの時割礼を受けた。  
アブラハムだけではなく家族全部、家のしもべも皆割礼を  
受けました。



信仰は心の中で信じるものでありますが、その確信のために割礼という恵みの手段を主は与えてくださいました。

今日、私たちの信仰がいろんなことに出会ってもぐらつかず、しっかりしたものとなるために洗礼式や聖餐式を与えてくださっています。

洗礼を受けたから救われるのではない、信じて救われる。その信仰が確かなものとなるために、ぶれないため、動揺しないため洗礼、聖餐式、また日曜日の礼拝など恵みの手段があります。

次いで割礼をアブラハムの家族が  
皆割礼を受けたと書かれています。

信仰は個人的なもの、  
個人的に神様の前に立つことでもあります。

しかし、恵まれた信仰生活を送るため、  
信仰の友、信仰の家族、兄弟姉妹を与えてくださいました。

祝福された信仰生活を送るために  
共に集まって一緒に礼拝を献げ、一緒にお祈りを献げるため  
兄弟姉妹、共同体を与えてくださいました。

割礼、今日で言うと  
洗礼、聖餐式、日曜日の礼拝に参加すること、  
兄弟姉妹の絆を強くし、  
信仰の励ましの大切な要素です。

2章29節で

心の割礼こそ割礼です。

申命記10章16節

10:16 あなたがたは、心の包皮を切り捨てなさい。もううなじのこわい者であってはならない。

心に割礼を受けることとはどんなことか。

ステパノは使徒7章でもっと厳しく言っています。

7:51 かたくなで、心と耳とに割礼を受けていない人たち。あなたがたは、先祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです。

神様のことばを素直に聞いて  
心を開いて罪を認め告白し、悔い改めること。  
ダビデはナタンを通して語られる神のことばを聞いて  
自分の罪を認めました  
隠していたときの苦しさ  
心を開いた時のよろこびを告白しています。

32:3 私は黙っていたときには、一日中、うめいて、私の骨々は疲れ果てました。

32:4 それは、御手が昼も夜も私の上に重くのしかかり、私の骨髓は、夏のひでりでかわききったからです。 セラ

32:5 私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました。「私のそむきの罪を【主】に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。セラ

いつも心を開いて、心に割礼を受けて  
イエス様の赦し、イエス様の平安をいただいて、  
主の栄光を現す歩みをしましょう。

祈り